

せいかつ百科

プラスチック製の容器や包装は リサイクルしましょう

●容器包装リサイクル法●

家庭から排出されるごみの重量の約2～3割、容積で約6割が「容器包装」といわれています。これをリサイクルし、ごみの減量化・資源の有効利用を促進するため、平成7年に容器包装リサイクル法が制定され、「消費者」「市町村」「事業者」の3者が役割に沿って一体的に取り組むこととされました。

市民の皆さんは「消費者」の役割として、分別ルールに従ってごみを排出することが求められています。きちんと分別することでリサイクルしやすく、資源として再利用できる質の良いものとなるからです。

●容器包装プラスチックとは●

「容器」とは商品を入れるもの、「包装」とは商品を包むものとされ、その中身の商品を消費したり、分離した後には不要となったプラスチック製の容器や包装のことをいいます。そのため、プラスチッ

ク製でも「商品そのもの」はリサイクルの対象外になっていますので注意してください。プラスチック商品そのものは燃えるごみです。

●容器包装プラスチックのリサイクルルール●

より良い資源とするため、次の点に注意してください。

- ①「ペットボトル」「白トレイ」「その他プラスチック」に分別する
- ②中身の商品は全て消費（分離）する
- ③汚れがあるものは軽く洗ってきれいにする
- ④洗っても汚れが残るものは燃えるごみに
- ⑤プラスチック以外のものは混ぜない（紙、シールはできる限り取ってください）

■問い合わせ＝本庁生活環境課
生活衛生係（内線 215）、各総合支所市民環境課



4月8日

事故防止を託しだるまりレー

イベント



市交通安全対策協議会が胆沢地域で交通安全だるまりレーを行い、出席者は交通事故防止などを祈願しました。小沢昌記市長が交通安全協会の3分会長にだるまを手渡し、リレーが出発。各集会施設では代表者が交通安全の願いを込めて署名し、だるまを巡回させました。

4月14日

河川の環境美化と保全に一役買う

市政



北上川流域一斉清掃活動を水沢、江刺、前沢の市内9カ所で実施しました。水沢姉妹町の藤橋付近の川岸では、地域のみんなで川をきれいにしようと、約50人が参加。空き缶や発泡スチロールなど多くのごみを回収した参加者は、すがすがしい表情を浮かべていました。

4月15日

自由な発想でアイデアを形に

イベント



市青少年発明クラブの開講式が行われました。佐藤剛会長は、34期生41人を前に「夢を形にするのが発明クラブ。22世紀の日本をつくっていく人になってください」とあいさつ。開講式後は早速、先輩中学生などの指導を受けながら「くるくるトランク」の制作に挑戦しました。

4月21日

地域活性化と利便性向上に期待

イベント



東北自動車道奥州スマートインターチェンジが開通し、関係者約110人が出席して開通式が行われました。市中心部から近い胆沢小山に整備され、救急医療施設へのアクセス向上、物流の効率化による地域産業の活性化、居住者・来訪者の利便性の向上などが期待されます。

4月21日

天文や宇宙の情報を発信し続けて10年

イベント



奥州宇宙遊学館の開館10周年記念式典が行われました。記念講演では国立天文台の小久保英一郎教授が水沢VLB観測所のスーパーコンピュータ「アテルイ」の概要や研究成果を紹介。記念式典では、同館の運営に貢献した人らに感謝状が贈られ、出席者は更なる発展を願いました。

4月28日

遠藤キミさん100歳（水沢真城）

肖像



金ケ崎町永栄に生まれ、23歳で故・鉄夫さんと結婚。穏やかな性格で手先が器用なキミさんは、縫い物や折り紙などをしながら日々過ごしています。長女の昭子さんは「長年にわたり日記を書き続けるなど、一つのことを成し遂げる根気強さは素晴らしいです」と語っていました。

すがすがしい五月晴れが快い季節となりましたが、皆さんいかがお過ごしですか。

東北自動車道の奥州スマートインターチェンジが先月開通しました。この開通により、救急患者の搬送による救命救急率の向上や物産の振興、観光客の誘致にも弾みがつきます。奥州市発展のために活用してまいります。

大リーグに挑戦している大谷翔平選手の活躍が、日本そしてアメリカを熱狂させています。二刀流では初めて、日本人最速、最年少の週間MVPを受賞するなど記録と記憶に残る活躍を続け、チームを勝利に導いています。本場に素晴らしい活躍です。大谷選手には、ぜひベーブ・ルースの記録を塗り替えてほしいと願っています。

スポニチいわて奥州きらめ



おうしゅう
羅針盤

きマラソンが、本県では唯一となる「全国ランニング大会100撰」に輝きました。多くのボランティアや沿道からの応援が高評価につながりました。これを励みにさらに改善を重ね、市民に喜ばれる大会にしたいです。

市では、地域おこし協力隊として東京都青梅市出身の藤野浩太さん（28）を任命しました。藤野さんは、カヌー競技U-23日本代表や国体、ジャパンカップでの入賞を重ねてこられた実力者です。カヌー愛好者の拡大や技術の向上のため、持てる力をいかんなく発揮され、7月に奥州いさわかヌー競技場で開催されるジャパンカップでは、選手としての活躍も期待しています。

4月から奥州市の地域自治区が廃止されたことに伴い、住所表記から「区」が削除されました。合併から12年が経過しました。より一層の連帯感の醸成を図っていくためにも、「奥州市は一つ」として市民の力を結集し、飛躍することを願います。

奥州市長 小沢昌記